

研究紀要の発刊に当たって

上川教育研修センター所長 石 前 聖 香

教員免許更新制の発展的解消から2年半、個別最適で協働的な学びを主体的に行う「新たな教師の学びの姿」が求められています。学校管理職との対話を繰り返す中で、自らのキャリアデザインや学校で果たすべき役割などを踏まえながら主体的に学び続ける教師の姿は、子どもの「主体的・対話的で深い学び」と相似形であるとされています。

こうした中、当センターでは、研究主題を「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」、副主題を「子どもを主語にした主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」とした第20次研究1年次の研究を推進してまいりました。

定例研究室会議や長期休業中の集中研究室会議等を通して理論研究を重ねるとともに、研究発表会Ⅰ・Ⅱ（令和6年6月18日・12月10日）を開催し、公開授業及び研究協議におきまして本年度の研究成果と課題の明確化を図りました。

また、北海道教育大学附属函館中学校の黒田 諭 副校長による「令和の日本型学校教育を考える～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」と題しました教育講演会（令和6年8月20日）を開催し、1年次研究について、今求められている授業改革の視点から多くのアドバイスをいただきました。改めてですが、研究推進の方向性について再確認することができました。

このたび、理論研究とともに、研究協力校（旭川市立東五条小学校、旭川市立東鷹栖中学校）及び当センター研究員による授業実践の成果を「研究紀要」としてまとめ、Webにて発刊させていただく運びとなりました。

上川の教職員の皆様のために「少しでも役に立ちたい」という当センター研究員の熱き思いの詰まった「研究紀要 第50号」をぜひとも御覧いただき、日常の実践に御活用いただければ幸いに存じます。

結びに、研究協力校をはじめ、御指導・御助言を賜りました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げ、発刊に当たっての挨拶といたします。

令和7年3月31日